

第1回 まいぶん企画展

# 空へ……

～飛行機に魅せられた豊前の人々～

明治から昭和にかけて、現在の豊前市出身者で、航空に関わった人物たち。

“空中飛船”～飛行機の研究に生涯を捧げた人、飛行士となり空を飛ぶ夢を叶えた人、さらに前人未到の領域へ挑戦を試みた人、激動の時代の中で戦場となった空に散った人―彼らは空に憧れ、空を目指して、空に深く関わって生きた人たちです。

現代の私たちは、飛行機でたくさんの人が一度に遠くへ移動できる便利な時代を生きていますが、こうなるまでには技術者や飛行士などの飛行機に関わる人々が、それぞれの人生を賭けて描いた軌跡がありました。

そこで、このたび、埋蔵文化財センターで初の企画展を実施するにあたって、当時の最先端の技術に関わり、「空」に魅せられた郷土の人々の足跡を紹介したいと思います。

豊前市教育委員会  
教育長 戸田 章

豊前市立埋蔵文化財センター

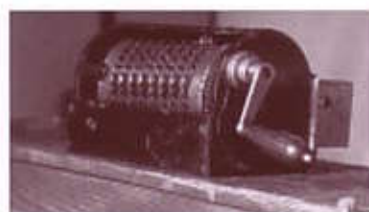


や す りょういち  
矢頭 良一 (1878 ~ 1908)

築上郡黒土村皆毛(現:豊前市皆毛)に誕生。岩屋村に移住し、岩屋小学校(4年制)・久路土小学校・豊津中学校(5年制)で学びつつ、幼少の頃から鳥類飛翔に興味を抱き、専門的な知識を得るため、中学を3年で中退し大阪へ向い、鳥類・理工学・語学などの学問を習得します。

その後、徴兵検査を機に帰郷し、岩屋村村長だった父の仕事を手伝う傍ら、論文『飛翔原理』を執筆します。そして、この頃「もっと早く計算できないか」と考案した『自働算盤』を携えて、明治34年(1901)、福岡日日新聞(現:西日本新聞)主筆の高橋光威の紹介で、陸軍軍医部長として小倉に赴任していた森鷗外を訪ねます。森の『小倉日記』には彼の来訪が記され、自らの発明品と人が飛ぶ機械の研究を語った彼は、鷗外の斡旋で上京し帝国理科大学(現:東京大学)にて教学に励みます。そして、'空中飛船'を夢見て努力するも、27歳の頃肋膜炎を患い、闘病しながらエンジンの試作・実験に没頭しますが30歳の若さでこの世を去ってしまいます。

彼の没後、森鷗外は追悼法要の発起人となり、『天馬行空』の書を彼に捧げました。



自働算盤



き べ  
木部 シゲノ (1903 ~ 1980)

築上郡八屋町上町(現:豊前市八屋)に誕生。

3歳時に一家で朝鮮の平安南道鎮南浦に移住し、両親の魚屋を手伝う日々の生活でしたが、13歳の時に京城(現:ソウル)にて「アメリカの飛行家アート・スミスの飛行会」に魅了され、飛行士になる夢を抱きます。20歳になり横浜市第一航空学校に入学、猛勉強の後、大正14年(1925)に三等飛行機操縦士免状を取得します。続いて昭和2年(1927)には日本女性初の二等飛行機操縦士免状を取得。両親に晴れ姿を見せたいと朝鮮三都市(鎮南浦・平壤・京城)をデモ飛行しました。そして翌年には故郷八屋町に帰還し、5000人の観衆に機上から「御挨拶」のピラを撒きました。

その後、第一航空学校の助教官、後、鎮南浦に戻って「飛行タクシー」の看板を揚げタクシー運転手をしました。戦後、引き上げと共に日本婦人航空協会の理事等を歴任、昭和41年(1966)には勲六等宝冠章を授与され、晩年は豊前市にて過ごしました。



新聞取材の際、好きな人はとの質問に対し、「飛行機と結婚しました」と語ったそうです。



ふじもと てるお  
**藤本 照男** (1903 ~ 1932)

築上郡八屋村大村(現:豊前市大村)に誕生。

旧制築上中学校5年の時、航空局陸海軍委託生に応募し合格。続いて横須賀追浜海軍航空隊で訓練を受けました。(当時の日本には空軍は無く、陸・海軍それぞれに航空部隊を編成していた)

大正13年(1924)、22歳で日本航空株式会社(※現在の日本航空とは別の会社)に入社し、福岡～上海、～台湾間の試験飛行等を成功し、飛行士としての実力をつけます。

昭和2年(1927)、アメリカのリンダーバーグがニューヨーク～パリ間単独無着陸飛行に成功したため、日本においても国産機による「太平洋横断飛行」が計画され、藤本もそのメンバーに選ばれます。その横断飛行の成功を祈願し、藤本は大富神社に安全成就祈願札を奉納します。しかし、昭和3年(1928)、操縦士監督だった後藤勇吉の墜落事故死と搭乗機K12長距離「桜号」の機体問題、さらに陸軍と海軍の軋轢等があった飛行計画は中止となります。

そして、藤本は昭和7年2月27日、大阪から福岡の名島へ向かう途中八幡上空で猛吹雪に遭い墜落死去。「終生、飛行への恨事」を抱えたままでした。



祈願札



いわもと ますみ  
**岩本 益臣** (1917 ~ 1944)

築上郡岩屋村大字大河内(現:豊前市大河内)に誕生。

築上中学校卒業後、陸軍予科士官学校に入学し、昭和13年には陸軍士官学校豊岡分校(陸軍航空士官学校に改称)に進み、昭和15年卒業と同時に少尉に任官され、浜松陸軍飛行学校に入校します。

その後、広東の飛行第九〇戦隊に赴任し昭和16年には中尉に昇進、同17年には航法教育を主とする満州白城子陸軍飛行学校に入学するまで中国各地、仏印、マレー、スマトラ、ジャワの出撃に参加しました。そして昭和18年銚田陸軍飛行学校(茨城県)の教官として就任します。

彼は、特攻という戦法には反対で「跳飛爆撃(注1)」を研究・推進していました。

昭和18年、大尉昇進と同時に村田和子(萩市出身)と結婚するものの、翌19年フィリピン第四航空軍に配属され、陸軍最初の特攻隊といわれる万葉隊の隊長に任じられます。

そして昭和19年11月5日リバ飛行場からマニラ軍司令部へ特攻機にて現地連絡する途中、米軍機に撃墜され戦死しました。

注1: 超低空で目標に接近し、爆弾を一度海面に落とし跳ね上がらせて命中させ敵艦船上を脱出する攻撃法

## 豊前市立埋蔵文化財センター

開館時間 9:30～16:30 (入館は16:00まで)  
休館日 月曜日 (月曜日が祝祭日の場合には翌日)  
年末年始(12月28日～1月4日)  
入館料 無料  
所在地 〒828-0021 豊前市大字八屋1776-2  
Tel 0979-82-5287



### 謝辞

企画展「空へ… ～飛行機に魅せられた豊前の人々～」の開催並びにリーフレットの作成にあたりましては、貴重な資料をご出品いただいた方々をはじめ、関係諸機関のご指導、御助言、ご協力を賜りました。記して厚く御礼申し上げます。

NPO法人豊津小笠原協会 理事長 川上義光 理事 光畑浩治 大富神社

北九州市立文学館 財団法人日本航空協会 航空遺産継承基金事務局

社会福祉法人 豊勝会・瑞豊会 会長 堀田賢治

新井雅幸 大熊生二 尾座本雅光(豊前市文化財保護指導委員長) 末廣政名 中西繁樹

(50音順・敬称略)

第1回 まいぶん企画展

空へ…

～飛行機に魅せられた豊前の人々～

会期:平成25年10月22日～12月1日

発行:豊前市教育委員会

〒828-8501 福岡県豊前市大字吉木955

印刷:築上印刷株式会社

〒828-0043 福岡県豊前市大字岸井201番1

平成25年10月22日